

**大阪エンタテインメントデザイン専門学校**

**学校自己評価報告書**

(平成28年度)

基準日＝平成29年3月31日

平成29年7月

**学校法人上田学園**

**大阪エンタテインメントデザイン専門学校**

平成28年度版 大阪エンタテインメントデザイン専門学校 学校自己評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、毎月、部会を行い、自己点検項目につき、不備な点を拾い出し、その改善に努めてきました。平成25年度よりは教育課程編成委員会、学校関係者委員会の設置を行いカリキュラム組成、自己点検等に外部関係者の意見を積極的に取り込むよう努めております。一方、平成21年度には、上田学園中長期経営計画を策定し、平成25年度では中間総括を行なうなど、逐次レビューを図ると同時に、その中長期経営計画に、自己評価制度部会の活動が反映していくような体制を築いております。

平成26年4月、当学園内で3校目の学校、大阪エンタテインメントデザイン専門学校が開校したことにより、自己点検制度に対する学園の取り組みを、同校も一般公開することで、学園が更に取り組むべき点を内外に問う形を図り、社会的責任を果たしていきたいと考えております。

平成29年7月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也

大阪エンタテインメントデザイン専門学校 学校長 越田英喜

平成28年度自己点検制度推進部会

大阪エンタテインメントデザイン専門学校 事務統括

教務部長

学生部長

大阪総合デザイン専門学校

事務統括

教務部長

学生部長

上田安子服飾専門学校

事務統括

教務部長

学生部長

学校法人 上田学園

メディアセンター所長

本部 総務経理部長

## **基準1 教育理念・目的・育成人材像等**

### **1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。**

学園として、創立者上田安子の理念を継承しています。当校の教育理念は「人と人の心をつなぐ魅力あるデザインは、魅力ある表現者から生まれる」をモットーとして、創造力豊かな、そして人々に信頼され愛され魅力的な人格形成をめざすことを教育の目的としています。

この理念に関しては継承する方針であるが、教育方針は育成すべき人材像を念頭に、時代に即して見直しを行う。

これらの教育理念は、全教職員に学内サイトにアップロードして周知するとともに、学外への周知徹底は学園本部の広報用サイトを利用していく。

### **1-2 学校の特色は何か**

「学ぶ」「研究する」「発表する」の三つの機能を備え、連携することで「プロとしての基本技能を確実に身につけることができる」まさに「劇場型」職業教育を実施しています。

また学園としては姉妹校として、75年の歴史を持つファッション系専門学校である上田安子服飾専門学校と平成26年4月に開校50周年を迎えた大阪総合デザイン専門学校があり、上田学園は三校体制のエンタテインメント、ファッション、デザインの総合学園として知られています。

### **1-3 学校の将来構想を抱いているか**

先に述べた「学ぶ」「研究する」「発表する」の三つの機能を備えた「劇場型」職業教育を実践する日本初の新しい試みの専門学校として、高度な実践型人材教育システムを構築していくことを主目的としています。

また、学園としては建学の理念を基に、伝統と時流のバランスを見極め、教育資源の多角化に挑戦しています。財務計画、校舎・設備計画に沿った各校事業支援、人事評価制度を含めた人事政策、社会的責任の実現（個人情報・自己点検部会、衛生委員会等）の方針を立て、学園改革を進めています。

## **基準2 学校運営**

### **2-1 運営方針は定められているか**

学園・学校運営方針に関しては、上田学園中長期経営計画を策定している。これに基づき入学者数、退学率、就職率、コスト削減などの業務目標の項目を定めている。これらは人事評価の業務目標策定時に教職員に徹底している。

学園もしくは学校機構の改革に関しては、常務理事会、経営会議、中長期経営計画推進委員会で検討を行っている。

### **2-2 事業計画は定められているか。**

事業計画については1-3項目の記載通り、上田学園中長期経営計画を策定し、これに基づき年度ごとの計画を理事会の審議を経て策定し実現に努めている。

### **2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか。**

「組織規程」を定め運営組織を明確にしている。さらにこの組織規定の定めを受けて「事務分掌細則」を定め、各部の業務を明らかにしている。また、「学校法人上田学園稟議規則」「学校法人上田学園業務委任規則」により意思決定機能を明確に定めている。

以上の規定等により当校は教務部、学生部における業務の分担が明確化されており、それにもとづいて、効率的な業務推進がなされている。校長が教務部、学生部を掌握して、各学校の経営を教育的観点、財務的観点両方から行っている。さらに、平成23年度から校長を補佐する事務統括職を設け、組織運営のかなめとして運営を効率的なものとしている。

### **2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。**

給与規程、常勤講師給与規定を定めて運用している。また、人事評価規程を定め人事評価制度を導入している。これにより現場での目標管理とその人事評価は制度として根付いた。今後、自己管理的な制度の趣旨について理解の浸透をすすめ、教職員側からの積極的な運用を図ることとしている。また、学園・学校目標を現場に浸透させ、現場に近い、各学科の目標、及び学科長の評価に重点を移していくため、学科長により各被考課者の目標設定と評価にこれまで以上に関与する制度にする、また、資格規程を定め教職員のインセンティブを高めている。

### **2-5 意思決定システムは確立されているか。**

最終決定機関の理事会・評議会のほかに、常務理事会を設けて、学園全体の組織・人事・中長期経営計画等の方針案を検討するほか日常的な事務については決定権を理事会から委任されている。常務理事会は両校長を含め実務的な理事により構成されている。また、各校の個別人事・予算・行事等の一般的事項については校長が決定するが、重要事項については経営会議で、両校の責任者の意見を聞いて、理事長が決定することとしている。

経理については経営会議決議事項の対象であるなしに係らず、5万円以上の案件に関しては支払稟議書でもって回章捺印し、理事長決裁(10万円以下校長決裁)とし、理事長、各校長ほか各部門責任者の共通認識を得ている。

平成27年11月以降、稟議システム(楽々精算)を導入し、スムーズな稟議決裁を行っており、透明性が高まることで、内部統制面でも有効に働いているとみている。

### **2-6 コンプライアンス体制が整備されているか**

教育機関として、法令遵守は当然の責務であり、業界や地域社会等の関わりにおいても、些かも法令に抵触することの無いよう学校運営に心がけている。事あるごと、学園本部を窓口

に各関係機関に助言を求めながら進めてきたが、今後はコンプライアンスのマニュアル化等、体制の整備が必要である。

### **2-7 情報公開が適切になされているか**

「学校法人上田学園情報公開に関する規程」を定め、(1)財務諸表に関する情報(2)自己点検・評価の結果の公表(3)シラバス他教育活動にかかわる情報(4)その他、法令により義務付けられ他情報、を学園のホームページ上で公開している。

### **2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか**

業務管理システムとしては、入学希望時点から卒業までの(募集・教務・成績・学費・就職)それぞれのシステムがあり、連携して効率的な運用を図っている。その他、勤務・給与・財務・資産の各管理システムでも業務の効率化が図られている。

情報システムを管理するサーバールームでは、各部署毎にファイルサーバーを設置しデータの保管・共有化を図り、定期的なバックアップにより保守している。

情報共有については、ローカルネットワーク内ではファイルサーバーを使用し、ローカルのエリアを超える場合にはオンラインアプリケーション(GoogleApps)を利用している。

### **情報通信教育推進室**

情報通信教育推進室は、平成20年度の設立以降、シラバス等カリキュラムバンクである「上田学園リポジトリ」サイトの構築・運用、「上田学園サイト」の構築・運用、クラウド活用による「動画 e ラーニング」サイトの構築・運用等、ウェブの積極活用に注力してきた。

平成28年度は、学園3校の広報サイトへのポータル(入り口)としての役割を持ち、学園全体の広報、情報公開ツールとして位置付けられる「上田学園サイト」([www.uedagakuen.ac.jp](http://www.uedagakuen.ac.jp))の更新頻度を昨年度よりも大幅に高めた。3年前の全面リニューアル時に導入した

CMS(コンテンツ管理システム)をフル活用し、学園3校のトピックスを定期的に発信して、学園全体の広報ツールとしての役割をより高めた。

## **基準3 教育活動**

### **3-1 各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか**

各学科のカリキュラムを策定するにあたり、本学教育理念の下、各学科の特徴・教育目標・育成人材像を達成するため、業界動向の研究を行い、学生のニーズを把握し、常に見直しを行なっている。

カリキュラムの中から各科目のシラバスを作成し、在校生には入学時、進級ガイダンス時に配布し、事前説明を通して学習意欲の向上と、年間授業目標の達成を目指すための指針としている。また、web上のOED機関リポジトリにおいて公開している。

### **3-2 各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか**

各学科のカリキュラム設計に際して、各々の関連分野、業界の動向やニーズを把握し、目標とする人材育成像を構成する知識、技術、社会人としての教養を教育目標の中に取り入れている。平成 26 年度より授業アンケートを実施し、科目ごとに業界のニーズに対応できるよう授業内容を再考している。また、キャリア教育についてもとくに科目を設定し、入学時から卒業までの過程において社会性を身に着ける教育を行なっている。

### **3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか**

各学科のカリキュラムは、充実した基礎知識をベースにして高い技術を身につける必修科目と、学生の将来目標に合わせた選択科目から構成されている。各科目のつながりを重視し、連携しあって教育目標を達成することが重要であると考えている。

### **3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか**

各学科の教育目標、人材育成像を基幹に補完構造を持ったカリキュラムに基づいて具体化した科目を設定している。各科目間の有機的な連携を保てるよう適正な位置付けをしている。

### **3-5 授業評価の実施体制はあるか**

平成 26 年の開学時より、全クラス全科目において前期末・学年末時に授業アンケートを行なっている。授業内容、カリキュラムの改善に向けた資料の収集を行い、教育体制、カリキュラムの向上を目指すための授業評価のひとつとした。質問項目はマークシートによる集合方式をとり、教員の授業方法・対応、教育効果、学生の授業姿勢などの自己評価と、教育環境を含めた総合評価にわたる 15 項目とし、その結果は、レーダーチャートで見ると全項目 5 点ポイント中 4 ポイント前後であった。記述項目をデータ化し、担当教員の今後の授業を進めていく上での指針となった。

### **3-6 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか**

教員採用にあっては、主に推薦方式をとり、履歴書・職務経歴書などの書類を精査し、教育目に向けた授業を行なうことができる能力を備えているかを判断し採用している。専任・常勤の教員に対しては、内外の研修に参加することを促しており、教育力の向上に努めている。

### **3-7 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか**

成績評価の方法は評価基準を明示しており、進級、卒業判定の方法は進級・卒業判定基準に明示されている。入学・進級ガイダンスにおいて、学修ガイドに明示された内容を担任教員が説明し

在学生に周知している。教科の各単位数は、学修ガイドに明示されている。

### **3-8 資格取得の指導体制はあるか**

本学の学科の性質上対応する資格試験は少ないが、「色彩検定」「CG 検定」などはカリキュラムに取り込み、取得の向上を目指している。

### **3-9 地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか**

本校は、南港にあり、ATC、インテックス大阪が近く、地域や住之江区のイベントに積極的に参加するよう勧めている。また、本校の文化祭である「エンタメ祭」では、一般の方々にも学校を開放し、作品展示や芝居、歌、ダンスなどの発表会を行ない地域住民との交流も進めている。また、キャラクターコンテンツ学科では、インテックス大阪で開催される同人イベントなどにも積極的に参加し、各々の作品の展示即売などを行っている。

## **基準4 教育成果**

### **4-1 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか**

本校は 2014 年の開学であり、まだ卒業生を送り出してはいない。しかし、キャラクターコンテンツ学科では「キャリアデザイン」「ポートフォリオ制作」をカリキュラムに組み込み、就職活動における指導を行なっている。

一方、タレント学科では、芸能プロダクション・事務所のオーディションを学内で開催し、学生の希望に沿った進路を選べるようにフォローしております。今期 1 期生が卒業しましたが、声優事務所や養成所への合格率は 100%となっています。

### **4-2 資格取得率の向上が図られているか**

本校は 2014 年開学以来 3 年が過ぎ、キャラクターコンテンツ学科で初めての卒業生を送り出すことができた。これまでの実績を元に、今後は「色彩検定」などの検定試験の取得率向上をめざしたカリキュラムの充実に取り組んでいる。

### **4-3 退学率の低減が図られているか**

退学率を 10 パーセント以下に抑えるべく、学生一人ひとりに対応したカウンセリングを実施し、きめ細かいフォローをしている。学生の出席状況は教務部で管理し、担任教員との連携によって退学の可能性のある学生を早期に把握し、担任教員が面談をする。また、健康上や精神面などに問題を抱える長期欠席者に対しては、心理カウンセラーが直接面談する機会を設けている。金銭面でやむを得ず退学する学生もあることから、各種の奨学金に関する情報を学習ガイドに記載し対応している。

### **4-4 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか**

本校では今年度初めてキャラクターコンテンツ学科の卒業生を送り出した。今後はより積極的に産学連携授業の実施など、外部評価の機会を増やすとともに、卒業生の組織化などの仕組みを構築する予定である。

なお、基準3, 4に関し、学科毎の課題・改善点については、別添にて明記しております。

## **基準5 学生支援**

### **5-1 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか**

就職・進学指導はキャリアサポートセンターが各学科長との連携により実施している。指導は計画されたスケジュールに沿って1年次より卒業まで進められる。一方、企業訪問等による求人企業開拓も姉妹校である大阪総合デザイン専門学校と共同で年間を通して実施している。

### **5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか**

学生生活全般にわたる種々の問題についての相談は、担任教員もしくは事務局が対応している。また、心理的な問題に関しては、必要に応じ教務の担当者(心理カウンセラー)がカウンセリングで対応している。また、留学生に対しては、学生部が、ビザの発行などの事務支援を行うとともに、生活面や心のケアなども行っている。

### **5-3 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか**

経済的支援が必要な在学生に対しては、日本学生支援機構、日本政策金融公庫（保証料全額学園負担）などの公的制度を活用するほか、本校独自制度を設けている。

入学前に実施している特待生試験制度、入学後成績上位者に適用される成績優秀者特待生制度、自宅外の通学者に適用される自宅外通学奨学生制度、上田学園兄弟姉妹入学制度のほか、学費分納・延納制度、学費ローンの利子分を支給する提携教育ローンなどがある。各種奨学金については学生部が窓口となり、入学後に説明会も実施し、災害時など緊急の際は、ただちに在学生に周知し、公的資金を活用する。最近は、経済的理由による奨学金活用者が増えてきていることから、経済面での支援策が今後も望まれると考えている。

### **5-4 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか**

学校保健法に従い、毎年度5月（6月）に定期健康診断を実施している。診断は業者委託し、結果は在学生に配付する。学校医は学校の最寄りにあり、健康相談等を出来る体制にある。在学生からの健康上の相談や、学内での発病、事故などの際は担当の教職員が適切な対応を行えるよう連絡、連携体制を整備している。

また、AEDを設置していて、教職員への使用方法の研修も実施している。

\* AED（自動体外式除細動器）とは人体に取り付け、電気ショックによって心臓の働きを回復させるための救命装置です。平成17年より一般の人でも使用が認められています。

#### **5-5 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか**

課外活動としては、キャラクターコンテンツ学科では、各種イベントに出展し、学生の制作した作品を展示することで来場者や企業の担当者の評価を直接感じる機会を設けている。学内でも本校のミュージアムで作品展示を行い、学生や一般の方々に鑑賞してもらう機会を設けている。

また、8月には東京の出版社にマンガ作品の「持ち込みツアー」を行っている。

タレント学科では大阪市・住之江区などの官が主催の各種イベントに参加し、来場者の評価を得ることでモチベーションの向上に役立っている。

また、学外での展覧会の開催など課外活動に関し会場費など補助している。

#### **5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか**

学生寮は業務委託している業者が運営している指定寮が男女共複数あり、希望者が利用している。各学生寮の運営状況等については、業者より定期的に報告があり、把握している。何らかの問題があった場合は、業者または在学生からの申出・相談により解決に向けての対策を協議する。また、入学生向けにパンフレットを配布し、情報の公開を実施している。

#### **5-7 保護者と適切に連携しているか**

学年当初に学修ガイド及びシラバス等を保護者宛に送付し、年間の教育計画・目標を報告している。前期末・学年末の成績評価を保護者宛に送付し、学生の修学状況(出席など)において必要がある場合は、教務部と連携し担任教員が保護者に連絡を取っている。

また、場合によっては3者面談などを行う場合がある。

#### **5-8 卒業生への支援体制はあるか**

本校では今年度より両学科で卒業生を送り出すことができました。卒業後は同窓会会員となり、同窓会の運営の基に同窓会会員とし卒業後も就職活動などの支援を受けることができる。

同窓会事務局は学内に設置され、卒業生の交流を図る。

#### **5-9 留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか**

上田学園中長期戦略である学園における留学生総数増加(全体学生総数の10%)を目標としている。日本語学校との共同募集活動戦略や、海外提携日本語学習施設との留学生指定校提携等を通じた活動に本格的に取り組んでいる。本校は場所柄大阪入国管理局にも近く、また関西の海外窓口である関西国際空港の沿線にもあたり、主にアジアを中心とした国際交流事業に積極的に取り組む予定である。また2年次に行く海外研修制度や英語教育のカリキュラム必須化など、在校生にも国際感覚を身に着けるべく、教育・指導しています。また留学生向けの学費減免制度もあり、留学生のサポートを充実させている。

外国人留学生の選考、受入れ、在籍管理、ビザ取得サポート等の業務について体系化されてい

る専門学校が少ないなか、当学園では国際交流課による学園内留学生の一元管理体制が整った外国人留学生教育にも強い学園として、他校との差別化が図られている。

## **基準6 教育環境**

### **6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか**

教育に関連する施設・設備教育関連備品はカリキュラムや学生数などの必要性に応じて整備している。

普通教室の設備は無線 LAN、プロジェクタ、ホワイトボードを整備している。コンピュータ教室は、二つのコンピュータ教室に49台のコンピュータと22台の液晶ペンタブレット、ペンタブレット27台と20台のスキャナ、有線 LAN、プロジェクタを設置している。そのほか録音室、ダンススタジオ、演技教室、作品展示室、多目的ホールなどがある。また、学内では無線 LAN を配備している。

### **6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか**

学外学習として、タレント学科ではイベントの開催やニコニコ生放送「声優魂」の出演、姉妹校のイベント出演などを行い、キャラクターコンテンツ学科では、インテックス大阪で開催されるイベント参加、作品展示会の開催を行なっている。また、産学協同授業等を積極的に進めていく計画である。海外研修については、キャラクターコンテンツ学科においては国際情勢を鑑み、今年度は実施を延期し、次年度2年と3年生が合同でフランスに行く予定である。タレント学科はアメリカに約8日間の研修を実施。アートセンターでのワークショップなど、国際的にも評価の高い学校での研修が受講できた。

### **6-3 防災に対する体制は整備されているか**

安全確保方策、安全指導体制、災害時の役割分担、情報連絡体制、災害時の行動マニュアル等は各校者の消防計画書に基づき整備されている。消防施設・設備の整備については、外観点検と総合点検を各年1回実施。またコスモスクエア開発協議会に参加し、協議会内で災害行動マニュアルを作成。大阪市や大阪府とも連携し、有事に対応できるよう体制を整えている。また地震等による避難訓練についても、実施に向け体制確立も目指している。

## **基準7 学生の募集と受け入れ**

### **7-1 学生募集活動は、適正に行われているか**

学生募集にかかる広報活動において、パンフレット・ホームページ等の出稿内容・説明表現については、その真実性・明瞭性・公平性・法令遵守等につき、学生部が十分な配慮を

行うとともに、入学希望者に十分な判断材料を提供できるよう実施されている。それらは教務部等でもチェックされている。

#### **7-2 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか**

教育成果の広報においては、入学希望者の参考になる情報提供という観点から、事実を正確に伝えるべく、留意している。

#### **7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか**

提出書類の願書に記載された将来の希望、高校等での調査書・成績証明書の内容などにより、本校の教育内容への理解や適正をもとに判断している。また留学生については全員に面接を実施しており、日本語能力、経費支弁能力、日本語学校における出席、成績などを総合的に判断している。

#### **7-4 学納金は妥当なものとなっているか**

学納金については参考にするのは大阪府専修学校各種連合会の専門学校学費データ、同分野校の学費の状況等である。これによれば、本校の学費等は概ね平均であることから、現状においては妥当性があると判断している。

### **基準8 財務**

#### **8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。**

学生数増加と教育環境充実のため、平成21年に中津校舎を購入したが、上田学園として新たに姉妹校、大阪エンタテイメントデザイン専門学校を開校した。そのためここ数年間無借金経営であったが、中津校舎購入時に平成21年度より銀行借入を行なった。今後も運転資金、大阪エンタテイメントデザイン専門学校開設運営資金等で必要に応じて銀行借入を行う。今後とも中長期経営計画に基き、財務基盤の安定を図りつつ、施設設備の充実を図ることとしている。

#### **8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。**

毎年、年度後半から当年度の補正予算、及び、翌年度の予算策定にかかっている。中長期計画のレビューは、隔月で行っている。

当年度の補正予算は人件費が固まり、翌年度の募集活動がピークを終えた段階で見直しを始めており、経営会議及び常務理事会で現状を報告している。予算を超える場合には便宜的に、支払稟議をもって各校長・理事長承認を得ている。

翌年度の予算は、学生募集動向が見通せる段階から、予算会議を開始し、3月の予算理事会までに収入の範囲で経費を決定していく。この過程で、事業計画の策定、中長期計画のレビューを

も合わせて行なっている。基本金組入れによっては、消費収支差額がマイナスになることもあるので、帰属収支差額を尺度に使用している。予算・収支計画手続きは有効かつ妥当と考える。

### 8-3 財務について会計監査が適正におこなわれているか。

会計監査契約を交わしている会計士からは、日常の会計上のアドバイスを受けそれに沿うよう業務を見直している。また、公認会計士1名及び企業会計の経験豊富な1名の計2名が、会計監査を含め学園経営の監査を見ている。また、他に、長年学園会計の監査に立ち合った会計士が理事となっており経営に関与している。

### 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか。

他の専門学校に先駆けて、平成18年度より財務情報を学園ホームページに掲載して、一般公開している。

## **基準9 法令等の遵守**

### 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

学校設置基準に係る法令等の遵守については、本部総務部が窓口になって大阪府、大阪市、その他関係機関に逐次相談の上、逸脱しないように図っている。

人権問題、教職員の労務問題には衛生委員会を窓口、個人情報保護の問題には個人情報保護推進部会が窓口になり、定期的に会合を重ね、問題点があれば改善に努めている。夏休みの教職員セミナーでその周知を行い、教職員の法令等の遵守意識を高めるよう行っている。労務問題に

### 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

個人情報保護推進部会を設置して、個人情報の保護に努めている。各部署には機密保護管理責任者を選任し、機密情報の管理・監督・指導を徹底している。

具体的にはプライバシーポリシー・就業規則・機密保護管理規定を策定して運用している。「就業規則」によりパーソナルコンピュータの取り扱いを規定し、学外への持ち出し等を規制している。また、「機密保護管理規定」により個人情報の管理徹底・個人情報の取得・守秘義務等を明記して、情報管理を徹底している。また、ホームページには個人情報の取り扱い・個人情報保護指針をプライバシーポリシーとして掲載している。

平成28年度からのマイナンバー制度の導入により、業者システムを活用してマイナンバーの漏洩防止に努めている。

### 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。

校長、事務統括、部長、学科長によるS会議において自己点検を進め、問題点があり次第、その対処について協議し対処している。平成25年度よりは各校に教育課程編

成委員会、学校関係者評価委員会の設置を行い、カリキュラム編成、自己点検等に外部関係者の意見を積極的に取り込むよう努めている。

#### **9-4 自己点検・自己評価結果の公開をしているか。**

平成23年度より学校自己評価報告書をホームページで公開している。また、平成25年度より学校関係者評価報告書もホームページで公開している。

### **基準10 社会貢献**

#### **10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか**

先にも述べたが、ATCの「こどもフェスタ」等、官のイベントにも積極的に参加。本校の文化祭と日程を合わせることで一般の方々にも学校を開放し、作品展示や芝居、歌、ダンスなどの発表会を行ない地域住民との交流を行なった。また、大阪総合漫画芸術ミュージアムを開館し、事前予約の方に貴重な作品等を観覧いただける体制を整えている。今後大阪府収蔵の美術作品等を借り入れて、本ミュージアムにて展示計画を予定。

学園としては2009年兵庫県西宮市に学園創立者である上田安子記念館を設立し、地域住民を招いたファッションショーや音楽コンサートなどの文化活動を行っている。

#### **上田安子記念館**

創立者、上田安子学園長の服飾教育を顕彰し、その教育理念と教育方針を後年に伝える目的で同氏の遺産により上田安子記念館(館長:上田浩)を西宮市に建立、同氏の遺品や勲5等宝冠章を初めとする表彰多数、同氏デザイン制作の衣裳多数、及び、クリスチャン・デイオール(仏)からの参考品を展示し、地域の服飾、デザインや関連分野に携わる方々に広く役立つことを期待し、開館日(毎週土曜日)を設け一般公開している。地域の文化教養の涵養に資するための「殿山町文化サロン」を継続して定期的に開催。文化人を招聘して教養講座などを開催している。

#### **10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか**

先のイベント等へ参加し、地域との交流をはかっている。

別紙)

各学科報告

## キャラクターコンテンツ学科

### ■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

#### 1. 学科の教育目標

キャラクターデザイン、マンガ、アニメーション、ゲーム分野を扱い、技術面の習得だけではなく、魅力ある作品作りのためのキャラクターを基本とした体系的なノウハウの習得、国際的なコミュニケーションに対応できる人材を育成する。

#### 2.本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画。

キャラクターの創造を通して、キャラクターデザイン、マンガ、アニメーション、ゲーム各分野における知識、技術の習得と可能性の追求。

#### 3.評価項目の達成及び取り組み状況

##### (1)教育理念・目的・人材育成像

【課題】希望分野の専門知識、技術だけでなく、より広い見識を持ち各分野での可能性を検討し追求できる人材の育成。

【改善策】各教科担当が意識を共有することで、学生の創作活動全般に対する意欲の向上を図る。

##### (2)教育活動

【課題】1、2年次は明確な分野分けをせず、3年次で各分野に分かれる。そのため1、2年次の日常の授業では、学習の意義や目標設定が不明確になる傾向がある。

【改善策】2年次以降のカリキュラム変更。特に各専門分野にかかわる授業の強化。また学生の同意を得た上での課外授業の実施。

##### (3)学修成果

【課題】今後、初年度生の進路についてより検討を重ねる。マンガ、アニメーション、ゲーム、それぞれの分野ごとに就職中心、作家活動中心等、事情が異なり現状では学科単独での対応は難しい。

【改善策】初年度生に関しては各自の希望を確認し、個別対応が中心となる。また、各専門分野の教員、講師、キャリアサポートセンターなどと協議し分野ごとの対応策を作成する。

#### (4)学生支援

【課題】今後、起こりうる学習意欲の低下と、それに伴うドロップアウトへの対応。

【改善策】カリキュラムの見直しと各教科の改善。課外活動やセミナーを活用し、将来に対する具体的な目標を得ることで意欲の向上につなげる。

#### (5)教育環境

【課題】各分野の web 戦略、グローバル化に対する適応が不足。

【改善策】海外向け web サイトの構築などを進めていく。

#### (6)社会貢献・地域貢献

【課題】高校から職業体験、部活動支援のワークショップ等の依頼を受け出張授業を実施しているが、高校生ニーズに答えられているのかは不明瞭。またより広い範囲で交流を図る必要がある。

【改善策】学生部、高校、業者との連携強化。

#### (7)国際交流

【課題】昨年度、国際交流基金の依頼でベトナムでの講演を行い、その後ベトナムの先生が来日した際には、学校の見学会等も行ったが、今後の対応は決まっていない。

中国の日本語を学ぶ大学生の短期留学を受入れ、日本語とともに本校の専門分野の授業を行っている。

2015 年度には学生の海外研修旅行が実施予定。それを学習効果に如何につなげていくかを今後検討していく必要がある。

#### 4.評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

現状のカリキュラムを基に、今後数年間にわたって見直しを行っていく。特にキャラクターデザイン、マンガ、アニメーション、ゲーム各分野の進路に関する調査を行い、カリキュラムに反映させていく必要がある。

## タレント学科

### ■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

#### 1. 学科の教育目標

表現者として必要な基礎技術、演技力、表現力等を修得し、人に感動を与えることのできるパフォーマーを育成する。また社会人としての礼儀、教養等、社会への適応能力を身に付けることを目指す。

#### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

発表の場を多く設け、自らの技術力を確認させ、更なる成長へと導く。視野を広げ自らの可能性にチャレンジする積極性を養う。

#### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

##### (1) 教育理念・目的・人材育成像

【課題】作品作りに於けるチームワークの大切さを学ばせる。

【改善策】発表することを目的とした作品(芝居、ダンス、歌等全ての分野で)を多く作り上げていくことで、他人と呼吸を合わせることの難しさと楽しさを実感させる。

【特記事項】学外での舞台出演の機会も数多く設定するよう努力している。

##### (2)教育活動

【課題】表現者としてのクオリティーを高めるためには授業内容の充実が必要である。【改善策】各分野講師間の連携を深め、授業内容や学生たちのレベル・方向性等の情報を共有し、授業の質のレベルアップを行う。

【特記事項】授業後必ずタレント学科共通の日誌を付け、授業内容や学生たちの様子を共有している。

##### (3)学修成果

【課題】学修成果は発表することでより充実したものになる。発表に向けての練習は目標と緊張を伴い、多くの成果を期待することができる。

【改善策】学内行事での発表や、講師の先生方の協力を得て舞台出演の機会を増やし、後日、その映像を見ての確認・反省等を行うことでよりいっそうの成果を上げることができる。

【特記事項】特になし

#### (4)学生支援

【課題】卒業後の学生の希望を把握し、本人に最も適した方向へ導く。

【改善策】今年度2年生が本校初めての卒業生となる為まだ実績はまだないが、芸能プロダクション・声優プロダクションの学内オーディションを開催。また学外オーディションのフォローやオーディション用のプロフィール・ボイスサンプルを学内で作成し、全面的にバックアップする。

【特記事項】新しい事務所の開拓にも力を入れることが必要。

#### (5)教育環境

【課題】学内設備をもっと有効に使用できる環境を作る。

【改善策】学生たちに、ステージの照明、録音スタジオ等の設備等を使いこなす技術を身につけさせ、学生が自由に機械を使用できる環境を作る。

【特記事項】特になし

#### (6)社会貢献・地域貢献

【課題】地域のイベント等に積極的に参加し、地域の活性化に協力する。

【改善策】本校の所在する住之江区の施設ATCのイベントに積極的に参加したり、高校生を対象とした声優コンテスト「声優魂」を実施し、声優を志す高校生たちに実践の場を提供している。

【特記事項】特になし

#### (7)国際交流

【課題】言葉の壁を乗り越えて、外国でも堂々と自分を表現できる人材を育成する。

【改善策】言葉の壁を乗り越えるのは言語力だけではない。多くの発表経験を通して、照れることなく全身を使って自分を表現できる力を養うことが重要である。

【特記事項】特になし

#### 4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

今、タレントには多くの要素が求められている。声優・ダンサー・歌手・役者等それぞれの分野の要素が重なって初めてエンタテイナーとして認められる。故に今後タレント学科が目指すものは、専門性を残しつつより広い視野での教育を考えるという事である。求められるエンタテイナーを育成するために、カリキュラムの検討を行いより充実した授業内容を目指して積極的に取り組んでいく。